

委員会の任期別メリット・デメリット

	メリット	デメリット
1年	○任期中に全ての常任委員会を経験することができる可能性があり、幅広く市政全般についての知見を深めることができる。	○テーマ別調査においては、改選後から6月議会にテーマが決まるまでの間と調査報告書を取りまとめてから改選までの間とで、活動が停止している期間がある。 ※任期を1年としたままで、改善策を考えることもひとつではないか。 また、テーマ別調査だけが委員会の活動ではなく、委員会の活動が停止している期間があるというわけではないという意見あり。
2年	○委員会の所管事項に対する知見が深まり、専門性を発揮することができる。 ○テーマ別調査においては、1年では答えを出すことができないような大きな案件も取り扱うことが可能となる。 ○現在、テーマ別調査の活動が停止している期間があるが(委員会の任期を1年とすることのデメリットでも後述)、そうした期間を短くすることができる。	○4年間で最大2つの常任委員会にしか所属できないため、希望する、あるいは、専門性を発揮することができる委員会に所属できない可能性が高まる。 ○テーマ別調査においては、調査報告書を取りまとめる回数が減ることになる。 ※2年間で1つのテーマを扱うことも可能になるというわけであり、2年間で複数のテーマを扱い、調査報告書を取りまとめることも可能であるという意見あり